



令和6年6月25日
道路局 道路交通管理課

「渡ります 元気な命が 歩いています」

～令和6年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品が決定しました～

令和6年度「道路ふれあい月間」推進標語の入選作品（最優秀賞3作品、優秀賞6作品の計9作品）が決定しました。

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発等の各種活動を推進しており、この一環として、令和6年度「道路ふれあい月間」の推進標語を広く一般から募集した結果、全国から2,547作品の応募がありました。

これらの応募作品について、「令和6年度『道路ふれあい月間』推進標語審査懇談会」の三好礼子委員（エッセイスト、元国際ラリースト）、やすみりえ委員（川柳作家）、吉岡耀子委員（交通・環境ジャーナリスト）の3名に選考いただき、[小学生の部][中学生の部][一般の部]の部門毎に、最優秀賞1作品と優秀賞2作品を決定しました。

入選作品の応募者には、「道路ふれあい月間」期間中に国土交通省から、賞状及び盾を贈呈いたします。

入選作品の標語は、令和6年度「道路ふれあい月間」の推進のため、幅広く活用する予定です。

※委員名は五十音順

問い合わせ先

道路局道路交通管理課 水上、西川

電話 03-5253-8111（内線37-422、37-423）

03-5253-8482（直通）

令和6年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品

◆ 最優秀賞（3作品）◆

「小学生の部」

「おはよう」も 「またね」もひびく つうがくろ」

たかとり まもる
鷹取 遵 さん （兵庫県 加西市立宇仁小学校）

「中学生の部」

「その道に 笑顔のバトンを 繋げよう」

はせがわ けいすけ
長谷川 慶佑 さん （福島県 福島大学附属中学校）

「一般の部」

「渡ります 元気な命が 歩いています」

かみや なるみ
上谷 鳴海 さん （兵庫県 神戸学院大学附属高等学校）

◎最優秀賞3作品のうち、委員が特に高評価をした「渡ります 元気な命が 歩いています」を今年度の代表標語とします。

◆ 優秀賞（6作品）◆

「小学生の部」

「おもいやり はこぶよどうろ だいじにね」

こばやし とあ
小林 叶歩 さん （新潟県 長岡市立豊田小学校）

「駆け抜けた あの日あの子と あの道を」

しおばら ゆいな
塩原 結菜 さん （東京都 足立区立新田小学校）

「中学生の部」

「譲り合い ペこりとお辞儀 あったかい」

もり このか
森 心花 さん （兵庫県 三田市立ゆりのき台中学校）

「安全な 道路が届ける 人・物・心」

とつか れいか
戸塚 玲佳 さん （静岡県 菊川市立菊川西中学校）

「一般の部」

「タッタッタ 道路も私も 上機嫌」

うちだ れおん
内田 伶音 さん （山口県 下松市）

「この子らと 共に未来を つくる道」

さかい こうぞう
酒井 厚三 さん （北海道 札幌市）

【各委員からの総合選評】

《三好委員》



気持ちのいい挨拶、譲り合い、感謝と笑顔、希望と未来。作品には、これらの言葉が飛び交います。「道路」はもちろん、生活すべてをこんな気持ちで生きたら、どんなに素敵な世界になることでしょう。

毎回、傾向は微妙に異なりますが、今年度は「やさしさ」や「繋がり」がより感じられる言葉が多く並びました。コロナ禍から抜け出て肌が触れ合うような安堵感がさらに深まったのかもしれませんが、個人的には元旦の能登半島地震で改めて道路の重要性を思う毎日だったので、道路との関わりや有難さが感じられる作品も気になりました。独特な表現でパッと目につく作品もありましたね。

見聞きした人たちが瞬間で幸せになれるようなポジティブな標語が選ばれたと思います。今回も楽しく審査させていただきました。応募してくださったみなさん、有難うございました。

《やすみ委員》



皆さまから寄せていただいた標語の数々、言葉に託した思いを想像しながら選考させていただきました。

今年度も明るく前向きな気持ちにさせてもらえる内容が多く、心に響きました。

道路での人との出会いや、道路のある景色を通して感じる穏やかな日常。その先に、安心安全を願うメッセージが込められていましたね。

代表標語に決定した「渡ります元気な命が歩いています」は言葉選びがしっかりとっていて印象的でした。とくに「元気な命」という表現が秀逸だと感じました。

絞り込んだ表現のようでありながら幅広い捉え方ができ、多くの人々の心に届く標語になることでしょう。

これからも「道路ふれあい月間」推進標語をきっかけに、思いやりの輪が広がることを願います。

《吉岡委員》



8月の「道路ふれあい月間」に向けて2500件を超える標語が寄せられました。多くの作品に道路を舞台にした人や車の様子がよみ込まれていて、生き生きとした空気を感じ取ることができました。

その中でも、選出された代表標語は命の大切さをまっすぐに歌い上げ、「渡ります」「元気な命」の言葉にははっとする強さと暖かさがあります。今ここで道路を渡るのには高校生の作者ご自身か、あるいは子供かお年寄り？ 多くの命を道路が預かっていることを改めて意識させられるような情景が目につかび、新鮮です。

【各委員から最優秀賞作品へのコメント】

小学生の部 【「おはよう」も 「またね」もひびく つうがくろ】

やすみ委員

最優秀作品は、毎日の通学路での場面を素直な言葉で表しています。「おはよう」は朝の様子、「またね」は下校の時間帯。挨拶の言葉をとおして時間の流れが伝わってきました。時間帯によって、道路は人や車の数も変化します。人の歩く速さも違ってくるでしょう。想像力を豊かにして受け止めた標語となっているのが大きなポイントです。

続く優秀賞の二作品についても温かみのあるまなざしで道路をとらえ、豊かな表現の標語になっています。

身の回りをよく観察し、まっすぐな気持ちを込めて伝えてくれた今回の小学生部門でした。

中学生の部 【その道に 笑顔のバトンを 繋げよう】

吉岡委員

この作品のキーワード「笑顔のバトン」は道路マラソンかリレーのイメージでしょうか。人と人の繋がりが思い浮かび、中学生ならではの友とのやり取りが路上で繰り広げられる光景も想像されます。見ても走っても充実感いっぱいのスポーツに気持ちを託した、さわやかな標語だと思います。

優秀賞の二作品からも道路へのそれぞれの思いが伝わってきます。「ぺこりとお辞儀」のユーモラスな表現によって譲り合いの場面がさらに暖くなるようです。「道路が届ける人・物・心」からは、日常も災害時も含めた道路の存在感に改めて気づかされます。

一般の部 【渡ります 元気な命が 歩いています】

三好委員

リズムカルで言葉の並び方もユニークな上谷さんの「渡ります」。その鼓動が聞こえてきそうな「命」という言葉にドキッとさせられました。こんな風にストレートに言われると、思わず運転者の姿勢も正されそうです。実は、審査懇談会の話し合いの中でグイグイ浮上した作品でした。「命」のテーマはあるものの、ここまで素直にその大切さを感じられるのは珍しく、とても新鮮。三者が妙に気になり、ついには代表標語に（作者は高校生でした）。

また、優秀賞となりました内田さんの「タッタッタ」など、勢いや明るさや個性的な言い回しが多く並んだ一般の部、選考も楽しかったです。酒井さんの「この子らと」は、見守る優しさや力強さが感じられて大好きですが、なぜか夕景が浮かびました。言葉の力は深いですね。